

1 生徒の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R3 入学 現3年生	国語			数学			英語		
	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時	1年時	2年時	3年時
	県 (12月)	県 (12月)	全国 (4月)	県 (12月)	県 (12月)	全国 (4月)	県 (12月)	県 (12月)	全国 (4月)
	66.9	53.5	68.0	44.4	39.6	45.0	54.2	51.6	39.0
	(0.97)	(0.95)	(1.00)	(0.85)	(0.99)	(0.96)	(0.98)	(0.94)	(1.00)
R5 正答率の全国比			0.97		0.88		0.85		

◎1・2年時は佐賀県学習状況調査、3年時は全国学習状況調査の推移である。

◎上段は平均正答率、下段()は県平均を1としての比較である。

◎「令和5年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較である。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

- ・令和3年度入学生（現3年生）は、学習状況調査の結果を県平均と比較すると、国語・英語（3年時）は2年時より数値が上昇した。数学（3年時）は2年時より下降したが、1年時の数値を上回った。
- ・全国平均と比較すると、国語、数学、英語ともに、3年時の数値は全国の数値を下回る。
- ・どの教科も「読み取ること」や「書くこと」の正答率が低い。誤答を分析すると、知識・技能が定着していないことや、それらを活用する力が身に付いていないことが見受けられる。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

- ・授業の導入時に前回までに学習した内容の復習テストを実施したり、授業の振り返り時に授業で学習した内容の確認テストを実施したりすることで、知識・技能の定着を図る。
- ・授業の中で、様々な資料から情報を読み取る「読み取りタイム」を設定したり、自分の考えを書く時間を「ライティングタイム」と位置付けて実施したりすることで「読解力」や「書く力」の育成を図る。

(2) （授業以外）児童・生徒の課題改善のための重点取組

- ・毎週金曜日の朝の時間に「読み取りタイム」を位置付けて、「認知機能強化トレーニング」や「読解力に特化した問題」に取り組む。
- ・帰りの会前に「学習タイム」を設定する。最初に取り組む教科を決めて、その後めあてを自主学習ノートに記入させてから自主学習に取り組ませる。残りを家庭で取り組ませることで家庭学習の習慣付けと内容の充実を図る。